

寄稿

被災地の痛みを、我が事として

小田原市長 加藤憲一

広大なエリアを襲った大津波、寸断された交通網やライフライン、地場産業の壊滅、長期化する避難生活、原発事故による放射能汚染、計画停電による広域での経済への打撃……。

見直しと共に、食料・水・エネルギー・ケアなどの面で真に持続可能な地域づくりが不可避であることを、余りに大きな犠牲と共に私たちに突きつけました。

3月11日の東日本大震災は、それぞれの地域における防災対策の強化のみならず、私たちの暮らし方、経済の在り方、日常的な支え合いなどの関係の根本的な

見直しと共に入ったと言われています。もともと小田原周辺では歴史上大地震に繰り返し見舞われており、次なる発生を食い止める術はありません。



かとうけんいち

1964年小田原生まれ。小田原高校、京都大学法学部卒。経営戦略コンサルティング会社、民間教育団体、農業、オービックビル事務局長、有限会社あしから総研代表などを経て、現在小田原市長を務める。妻と子ども2人の4人家族。

状況と要請に応じながら、細くとも息長く続け、現地の痛みを私たち小田原の痛みとして感じる事が大切なのです。被災地の皆さんが経験した苦しみや悲しみ、復旧・復興への歩みの姿から学べるものを、私た

私が変わる・小田原が変わる

おだわらを拓く力

(加藤けんいち後援会)

小田原市栄町2-13-1-2F

TEL.0465-21-5260

(月・水・金 10:00～17:00)

<http://www.katogen.info>